

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年1月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス  
※2 この動向は、1月中に各普及地区から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 「魅力発信！えひめ農業NOW」（1月分）

## 東予地方局地域農業育成室

### ■令和2年産ひめの凜、西条市で倍増の見込み

- 地域農業育成室はJA周桑・JA西条と連携し、「ひめの凜」の令和2年産の作付け推進に向けた説明会を開催、109人の参加があり関心の高さがうかがえた。
- 西条市の令和2年の作付け希望者数及び面積は、71人、59haになる見込み（参考：令和元年は41人、27ha）。
- 1農家当たりの栽培面積は80aで、大規模な作付けであることが特徴である。
- 今後は、栽培講習会などで栽培技術の向上を図り、収量・品質の確保を目指す。



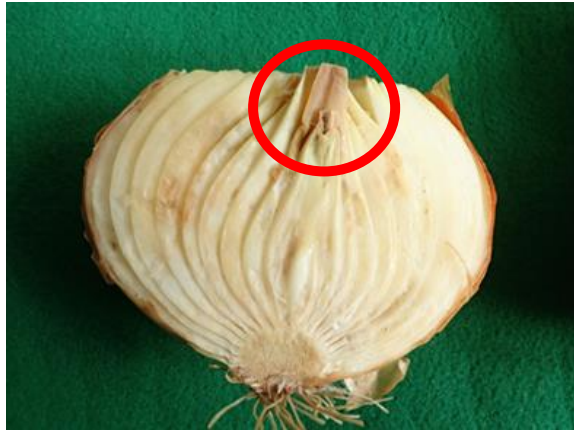
作付け推進説明会の状況

### ■加工たまねぎの鱗茎腐敗症の発生抑制を目指して

- 地域農業育成室は1月16日、JA西条管内の加工たまねぎ（26名、32ha）圃場において、鱗茎腐敗症の発生状況調査を病害虫防除所及びJA西条と連携して実施。
- 昨年、同症状による軟化・腐敗により、出荷先からのクレームが多発したことから、早期に発病株を除去するため実施したもの。
- 同症状は、土壌伝染し貯蔵中に発病することから、昨年発生した圃場の全株について調査したが、今回の調査では確認されなかった。
- 同室では、収穫の始まる5月まで定期的に調査し、発病株の除去を指導するとともに、発生を助長する排水不良ほ場における高畝栽培の推進や適期防除指導により、加工たまねぎ生産の支援を行う。



圃場での発生状況調査



たまねぎ鱗茎腐敗症

## 四国中央農業指導班

### ■複合施設「タグボート大正」（大阪市大正区）で葉物野菜を販売促進

- 四国中央農業指導班は1月19日、普及組織先導型戦略的産地育成事業において、加藤農園の葉物野菜の販売促進を、大阪市内大正区の複合施設「タグボート大正」で実施した。
- 水辺のターミナルタウンとして前日の18日に開業した「タグボート大正」は、船上レストランや食堂街を併設し、ワークショップやホテルの建設が計画されている。
- 加藤農園は施設のエントランスに設営されたマルシェ会場では、来場者に栽培方法の特徴、料理方法の説明をしながら対面販売したり、川辺でお弁当をひろげている方に試食してもらうなど好評であった。
- 加藤農園は毎月1回マルシェに出店し、食材の美味しさをPR、併設されている飲食店への

売り込みをおこない顧客獲得を目指していく。

- 同指導班では、今後も施設の運営会社「RETOWN」や県大阪事務所と連携を図りながら販路拡大を支援していく。



「タグボート大正」のエントランス



葉物野菜のマルシェ

### ■サントリー ザ プレミアム フェスで特産品を販売促進

- 四国中央農業指導班は1月30日から31日、四国中央市の寺尾果樹園と鈴木農園の特産品の販売促進を支援するため、大阪市内で開催された「サントリー ザ プレミアムフェス」に参加し、来場者へのPR活動を行った。
- サントリー ザ プレミアム フェスは、近畿圏内の飲食店にサントリーの新品などを紹介するイベントでサントリーの営業担当者や取引がある飲食店などが来場者する。
- 寺尾果樹園は、甘平、レモン、ポンカン、ブラッドオレンジなどの生果、鈴木農園は伊予美人の煮物を試食展示し、こだわり栽培の国産レモンや愛媛県オリジナルの甘平、伊予美人の味や食感も好評であった。
- 同指導班では、今後取引ができそうな飲食店を検討し、県大阪事務所と連携しながら両園と参加した業者とのアプローチを支援していく。



寺尾果樹園



鈴木農園

### ■さといも疫病防除対策セミナーを開催

- 四国中央農業指導班は1月30日、四国中央・西条・今治地区農業改良普及事業推進協議会とともに、東予地域のさといも生産者を対象に疫病防除対策セミナーを開催(生産者115名、関係者35名)。
- セミナーでは、宮崎県総合農業試験場の黒木特別研究員と県病害虫防除所篠崎担当係長より、さといも疫病の発生状況及び発生要因について報告があった。
- また、主要3県で取組んだ防除対策の研究成果の報告後には、生産者から防除対策実践に向けた活発な質疑が行われた。



熱心に聴講する参加者

○同指導班では、栽培講習会等で更に疫病対策を周知し、地域一体の発生モニタリングにより、防除の徹底に努める。

## 東予地方局産地戦略推進室

### ■東予地域で統一した花木栽培指針を作成

○産地戦略推進室は1月20日、県及び農協等10人が出席のもと、「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」で推進している花木（ピットスポラム、ビブルナム・ティナス、メラレウカ）3品目の栽培指針検討会を開催した。

○各農協からは、定植に関することや、施肥・農薬の種類、樹形維持の重要な項目である収穫・剪定等、積極的な意見が出され、統一した指針を取りまとめた。

○3月に開催する生産対策会議では、関係機関に東予版栽培指針を報告するとともに、今後は指針に基づいた栽培技術の高度化支援に取り組んでいく。



参加者による検討会

## 今治支局産地戦略推進室

### ■第3回花木栽培塾を実施

○産地戦略推進室は1月16日、第3回の花木栽培塾（島しょ部対象）を開催し、生産者11人が参加。

○花木の新規生産者等が、栽培技術の円滑な習得が図られるよう講座形式の栽培塾を開講しているもので、普及指導員が冬季の管理と、ビブルナム・ティナスの花蕾枝の収穫・枝の調整作業について指導した後、圃場へ移動し収穫の実演を行った。

○参加者からは、「樹高が高くなったビブルナム・ティナスを低くするため、剪定を兼ねて花蕾枝を積極的に収穫していきたい」との意向が示された。

○今年度最終となる第4回栽培塾は、3月に剪定方法について行う予定。



現地圃場での収穫指導

### ■花材としてのオリーブ切り枝のテスト出荷を開始

○産地戦略推進室は、新たな花木としてオリーブの切り枝に注目し、東京大田市場へのテスト出荷開始を支援した。

○オリーブの枝葉は、消費者に人気の高い花材となっているが、水あげが悪いことが懸念されることから、当室では、今治独自の花木鮮度保持技術をオリーブにも転用するよう指導したところ。

○現在まで、水あげの問題は発生しておらず、販売単価は60cm秀品が1本120円と、一般的な葉物花木と比べて高い値段で取引されている。

○テスト出荷は1月～2月の2か月間を計画しており、今後、品質評価や生産費等について検証を行ったうえで、長期間（秋から春）の出荷に取り組むこととしている。



荷造りの指導

## ■今治市大島でのオリーブ栽培の推進に向け、説明会を開催

- 産地戦略推進室は1月23日、今治市大島でオリーブ栽培を広げるためオリーブ栽培説明会を開催した。
- 市やJAの広報誌にチラシを折り込む等して、広く新規生産者の募集を行ったところ、今治市吉海町の会場には、栽培に関心のある生産者等20人の参加があった。
- 当日は、当室からしまなみ地域でオリーブ栽培するメリットを説明した後、地元オリーブ生産者グループより、栽培から加工までの作業の流れについて説明をいただいた。
- 個別相談では、オリーブの栽培に適した農地や耕作放棄地の活用、資金面の補助制度等、栽培開始に向けた具体的な相談が多くあったことから、同室では、引き続き栽培講習会の開催案内をする等情報提供を行い、オリーブ栽培への誘導を図る。



説明会の様子

## 中予地方局地域農業育成室

### ■イチゴの生育状況を見える化

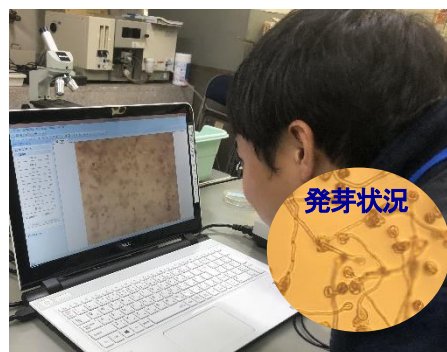
- 地域農業育成室は12月から、収穫期にあるイチゴの生育状況を診断するため、管内の栽培農家28戸を対象に、定期的に葉柄中硝酸イオン濃度の測定を実施している。
- 厳寒期におけるイチゴの生育を安定させるためには、長年の経験に基づき、葉色、草丈、着果状況などから生育状況を判断し、肥培管理を行っているが、その判断は個々の農家によって異なる。
- そのため、当室では農家にわかりやすく生育状況を伝えるため、硝酸イオンメーターを用いて数値を提示、指標と照らし合わせて、追肥等の指導を行っている。
- 生産者は、これまで感覚で生育状況を把握していたが、数値で判断できると好評である。



硝酸イオン濃度の測定

### ■キウイフルーツ生産者の花粉検定を実施

- 地域農業育成室は1月8日から10日、局内土壌診断室で、キウイフルーツ花粉の発芽検定を行った。
- これは、キウイフルーツの安定生産とJA営農指導員の検定技術向上を支援するために実施したもので、中予若手普及員の勉強会（ST会）の一環として、2年目までの職員6人も参加し、技術習得に努めた。
- JAえひめ中央では毎年1月、授粉用花粉の注文締め切りを前に、貯蔵花粉の検定を実施しており、今年は生産者332人から依頼のあった1,170サンプルの発芽率を確認。生産者は、今回の判定をもとに、花粉使用の可否や希釈倍率を決める。
- 同室は、今後もせん定や授粉作業の適切な実施などを継続指導し、管内キウイフルーツの安定生産をサポートする。



花粉の発芽状況を顕微鏡に繋いだパソコン画面で確認

## 伊予農業指導班

### ■管内3集落営農組織がさといもの共同出荷を開始

- 伊予農業指導班は、平成30年度からさといも栽培を開始した稲荷集落営農組合（伊予市）、（農）ほのぼの農園（松前町）、川井営農組合（砥部町）の3集落営農組織に対し、相互訪問や先進地視察を利用した交流会を実施し、組織間連携によるさといも販売の共同化を提案。
- その結果、今年産から3組織による共同出荷を行うこととなり、1月17日、（農）ほのぼの農園において、営農組織の担当者3名が出席し、出荷先の加工業者と出荷規格の目合わせを実施。出荷は1月21日から始まっており、今年産は約10tの販売が見込まれている。
- 加工仕向けでの契約で、価格の安定と調製作業にかかる労力軽減が図れることから、営農組織の経営安定に繋がることが期待される。



さといもの出荷規格について目合わせ

### ■中山栗の新たな加工品製造等で産地の活性化に向け誘導！

- 伊予農業指導班は1月16日、県食品産業技術センターで、道の駅なかやま及び中山特産品センターの運営管理者である、(株)プロシーズの代表者による栗の新たな加工品の製造に向けた勉強会を開催。
- (株)プロシーズは、自社での栗の加工事業に関心を持っており、当日は、松本社長他役員等6名が出席し、食品産業技術センターが開発した「高温高圧調理機（レトルト処理器）」を活用した新たな加工栗の製造方法について学ぶとともに、製品の保存方法やカロリー表示等について熱心に意見交換を行った。
- 同指導班では、(株)プロシーズを中山栗産地の維持発展に向けた中心的な担い手として位置づけ、新たな加工法の紹介や商品情報を提供し、当製造技術の導入を促すとともに生産部門への取組みについても誘導している。



食品産業技術センターとの意見交換

## 久万高原農業指導班

### ■伝統漬物の技術伝承勉強会を開催

- 久万高原農業指導班は1月17日、過去に生産が盛んであった久万山漬等の技術伝承と新たな漬物の開発等を目的とした勉強会を開催した。
- これは、局予算「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」に基づくもので、当日は、かつて久万山漬を生産していた元久万高原婦人農産物加工組合 岡ミヨ子氏と漬物アドバイザーの松山東雲短期大学 大塚暢幸教授を招き、移住農業者や漬物生産を志向する26名が参加。
- 勉強会では、大根の焼酎漬やトマトの粕漬の加工実習を行い、参加者からは、「漬け方が良く理解できた」「新たな漬物にもチャレンジしたい」などの意見が聞かれた。



大根を使った焼酎漬の加工実習

## ■トマト灰色かび病の農薬耐性菌簡易検定を実施

- 久万高原農業指導班は、12月下旬から1月上旬にかけて、トマト灰色かび病の農薬耐性菌簡易検定を実施した。
- これは、灰色かび病により果実にゴーストスポットが発生し、本年の規格外品が例年の2%から4%に倍増したことから、生産者等の要望に応じて行ったもの。
- 検定は、ダイコンディスク簡易検定法（灰色かび病菌を塗布した綿棒から、薬剤に浸したダイコンへのかび移動により、耐性程度を判定できる方法）を用いて実施。
- その結果、8農薬の内、3農薬については耐性菌の発生が疑われたことから、同指導班ではJA松山市トマト部会等と連携して、これ以外の農薬を中心としたローテーション散布を指導する。



灰色かび病によるトマトの  
ゴーストスポット症状



ダイコンディスク簡易検定法により、  
トマト灰色かび病の耐性菌発生を検定

## 中予地方局産地戦略推進室

### ■パクチーの冬季栽培における安定生産実証を開始

- 産地戦略推進室及び地域農業育成室は、東温パクチーの周年出荷に向けた冬季の安定生産実証圃を、このほど東温市内2ヶ所に設置した。
- うち1ヶ所は、ハウス栽培で単位面積当たり収量をも高めるための播種方法や播種量について、もう1ヶ所は、露地栽培で生育促進を図るためのトンネルや不織布など被覆資材の効果的な組み合わせを検討する。
- パクチーは、生育適温が18~25℃で周年出荷も可能であるが、単価の高い夏季や冬季は、発芽不良や生育遅延等により生産が不安定となっていることから、両室ではこれらの対策技術の開発により、安定生産と出荷量の確保を図る。



ハウス栽培における播種方法・播種量の検討



露地栽培における効果的な被覆方法の検討

## 南予地方局地域農業育成室

### ■福祉事業所とJA育苗センター業務のマッチング

- 地域農業育成室は1月16日、JAえひめ南の野菜・花苗等の育苗業務に係る労働力確保及び障がい者の就労機会の拡大のために、JAと宇和島市三間町の障がい者就労施設「ゆいの里」との農業体験によるマッチング支援に取り組んだ。
- 8名の方が、JA職員の説明を受けながら、育苗に使用するセルトレー裁断と育苗ポットへの土詰め作業に1時間程度取り組み、作業体験後には、施設関係者と意見交換を行った。
- ハサミを使った作業やポットの土詰め等の作業は順調に行われ、障がい者の能力に応じた作業を依頼すれば、十分対応できることが確認できた。
- 今後は、育苗センターの稼働時期での実務作業の日程調整や報酬について協議を進めるとともに、農業の就労場所をJAえひめ南と連携して発掘し、労働力確保の解消と障がい者の就労機会拡大に取り組む。



セルトレーの裁断体験



育苗ポットの土詰め体験

### ■企業組合津島あぐり工房 あすも 民宿“すなだ”をオープン

- 地域農業育成室はグリーン・ツーリズム活動の一環として、農家民宿開業支援を行っている。
- そのうち、食文化発信基地「あすも」では、地区内の空き家を活用した素泊まりや農林漁業体験ができる民宿を1月12日に開業し、併せてレストランや商品開発をめざす滞在型の起業家育成事業の取り組みを開始した。
- 開業時には、ボランティア滞在での予約や起業家育成事業などの相談も多くあった。なお、月～金の宿泊時は、あすものモーニングセットやランチが利用できる。
- 同室では、当施設が南楽園まで車で5分の好立地であることから、宿泊+農林漁業体験で交流人口が増えるよう活動を支援する。



## 鬼北農業指導班

### ■栗の大規模高収益栽培技術の普及に向けて

- 鬼北農業指導班は、「普及組織先導型革新的技術導入事業」により設置している栗の大規模高収益技術の実証モデル園(1.5ha)が、11月末日に設置完了し、12月から自動かん水システムを稼働させ、貯水、かん水等に必要な時間を確認するなど、資材メーカー等の事業関係者



と栽培管理マニュアル等の作成に着手した。

- また、令和2年1月24日には、鬼北地域農業振興協議会（鬼北町、松野町、JAえひめ南鬼北広見支所）において、栗の大規模高収益栽培モデル園で導入した栽培技術を説明するとともに、今後の技術導入や栗栽培面積拡大について検討した。
- 同指導班は、鬼北ぐりの復興にむけ、大規模高収益栽培モデル園の早期成園化を図り、高収益技術を実証、普及する。



縦横を揃えて植栽したモデル園（1.5ha）  
（ドローンによる空撮）

## 愛南農業指導班

### ■さくらひめJA出荷開始に係る、出荷調整指導実施

- 愛南農業指導班は1月17日、町内さくらひめ生産者（1人）のJA出荷に係る調整指導を実施。
- これは、産直市を中心とした販路では、価格を維持することが困難となっている生産者の状況を受け、指導班、産地戦略室、農産園芸課、花き研究指導室及びJAえひめ南が協議し、新たに県外出荷を行うことになったことを受け実施したもの。
- 当日は、適正な切り前の再確認、前処理方法、出荷資材について、再確認した。
- また、市場出荷においては、規格の厳格な遵守により評価され、価格を維持することができることを説明し、各階級・等級に見合う荷姿になるよう丁寧な出荷調整作業を指導。
- 同指導班は、市場への継続出荷に向け、適切な栽培管理・出荷調整の徹底を図り、さくらひめ高品質生産を図る。



出荷規格について指導

## 八幡浜支局地域農業育成室

### ■担い手確保に向け各地域で支援チーム設立

- 地域農業育成室は、担い手確保に向け関係機関と連携の上、各地域で農業支援チームの設立を支援している。
- 八幡浜市では、既存の宮内支援チームを取り込み、みつる管内全域（宮内、日土、喜須来）で一つの支援チームを設立し、1月から研修生1名を受け入れ研修を開始した。
- また、伊方農業支援チームでは、1月17日に打ち合わせ会を開催し、今後、瀬戸や町見を巻き込んだ組織へ拡充する方向となった。
- 今後も担い手確保のため農業支援チームの設立支援を継続する。



伊方農業支援チーム会

## 大洲農業指導班

### ■新しい特産品のお披露目間近

- 大洲農業指導班は、関係機関と連携し、大洲市肱川町で地域活性化に取り組む「肱川プロジェクト」（平成30年3月設立）の地域特産品開発の支援をしている。
- 1月15日、同プロジェクトが市事業を活用し開発を進めている特産のトマトを使ったチーズケーキの来年度販売を目指し、価格設定や販売形態等について協議した。
- 販売に先立ち、ケーブルテレビで商品が紹介されることとなっており、開発に携わったメンバーの意欲がより高まった。
- 同指導班では、同プロジェクトが取り組む新たな加工品開発の支援を行う。

## 西予農業指導班

### ■いちご「紅い雫」の販促等が進展！

- 西予農業指導班は、いちご「紅い雫」を栽培する生産者（2戸）に対し、ブランド戦略課と連携してアジアへの輸出・販促支援に取り組んでおり、手続きが完了次第、本県初のいちご輸出となる見込み。
- また、新たな販路として、県産品の取扱い意向のある飲食業者を選定し、司厨士協会愛媛県本部関係者や(株)南レクなど通じてに交渉したところ、高評価を得て商談が成立しており、青果や冷凍品など多様なアイテムで納品することとなった。
- 県内飲食店ではデザート（パフェ）での提供、観光施設や松山空港などの土産物取扱い業者ではインバウンドをターゲットに、差別化した青果の販売なども行う予定。
- 同指導班では、販売先とのマッチングや知名度アップを図る新たな商品提供に向け、関係機関と連携し、生産者を支援する。



飲食店との商談の様子

## 八幡浜支局産地戦略推進室

### ■フィンガーライムの産地化に向け生産者組織を設立

- 1月15日、南予のフィンガーライム生産者・栽培希望者による新組織「フィンガーライム産地化推進協議会」が設立された（梶谷光弘会長、10件）。
- 生産者らの情報共有を図り産地化を進めるために、産地戦略推進室が設立を支援してきたもので、設立会では、先駆的生産者とブランド戦略課から販売状況や需要側の期待について情報提供があったほか、南予地方局からハウス整備に係る補助事業等を説明した。
- 会員の多くが来年度中のハウス整備（18a見込み）を目指しており、協議会では、品質を落とさずに生産量を伸ばせるよう技術指導や共同販売を進めることにしている。
- 当室は、引き続き関係者と連携して、「国産”フレッシュ”フィンガーライム＝愛媛」のキャッチフレーズで産地化を目指す。



南予の3市1町から栽培希望者が集まった

## ■台湾に向け甘平を2t出荷

- JAにしうわは、台湾での春節の贈答用として愛媛県オリジナル品種「甘平」を7日から20日にかけて5回に分けて計約2t(昨年918kg)輸出した。
- 農薬の使用基準が国内と異なる台湾向け生産のため、施設栽培で防除等を区分した4件の果実が輸出された。今年の春節は1月25日と昨年より11日早いいため酸高が懸念されたが、厳選された果実が輸出され、前年並みの価格で販売された。
- 今後、関係者で今年の販売を振り返り令和2年産の取り組みについて検討する予定で、同室はブランド戦略課、JA及び生産者とも連携して高品質栽培技術や香港輸出の支援を継続する。



輸出用甘平の選果状況



箱詰めされた台湾行き甘平

## ■台湾の裕毛屋で甘平と真穴みかんをプロモーション販売！

- 八幡浜支局産地戦略推進室は1月17日～19日、ブランド戦略課と連携し海外への販路拡大を目的に、台湾の裕毛屋で開催された「愛媛フェア」に参加し、JAにしうわの甘平と真穴みかんのプロモーション販売を行った。
- 贈答需要を狙った販促であり、今年の春節は昨年より11日早い1月25日であるため食味に不安があったが、試食販売による甘平・真穴みかんの売り上げは、約30万円(昨年18.5万円)と好評であった。
- 同室では、今回のプロモーション販売から得た情報を出荷関係者への報告会等で周知し、来年度以降の海外輸出に向けた生産指導に繋げる。



愛媛フェアでの販売



甘平販売状況



真穴みかん販売状況

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543